

CrackProof 導入事例



～ メタバースプラットフォーム運営 A社様 ～

株式会社DNPハイパーテック

Copyright 2023 DNP HyperTech Co., Ltd.

メタバースプラットフォーム運営

CrackProof 導入事例インタビュー



A社様は、メタバース空間でアバターを使用しコミュニケーションが楽しめるメタバースプラットフォームを提供している。世界中から同じ空間に集まってコミュニケーションができることに加え、メタバース空間の出来事を配信し、視聴者とのやり取りなども楽しむことができる。また、ビジネス向けにVR技術を利用した研修システムや教育システムなども提供している。

多くのユーザーに支持されているメタバースプラットフォームを運営するA社様に、セキュリティ対策について伺った。

一番のセキュリティ課題は “メタバース空間で使用する アバターデータの保護”

メタバース空間の中でコミュニケーションする際、自分の代わりとなる「アバター」を使用する。そのアバターには、A社様のサービスに組み込まれるものと、ユーザーがオリジナルで作るものがある。

問題は、アバター同士でコミュニケーションを取る際、“同じ空間にいる別のユーザーに自分のアバターを表示するため、アバターを構成するデータを相手ユーザーに送る必要がある点”である。

自分のアバターのデータを“コピーできる状態”で相手に渡すことになるため、結果として個人で制作したデータやメタバース空間内で販売するデータが不正者

に抜き取られるリスクが生じるということだ。同社は、ユーザーに送信する際にアバターのデータをプラットフォーム内で暗号化していた。しかし、アプリ自体がクラッキング(不正な解析・改ざん)されるとデータを解読される危険性があるため、セキュリティ対策を万全にするためにはプラットフォームのアプリをクラッキングから守る必要があった。

「立ち上げの段階では、そこまでのセキュリティ対策が必要だと考えていませんでした。しかし、運営する上で、色んなタイプのアバターを扱うようになり、更に今後アバターの販売機能を付けていくようなビジョンを考えていく中で、やはりここはきちんと皆さんのデータを守ることが会社の方針として必要であると判断しました」とA社様は言う。

“目指したのは強固なセキュリティと安定動作の両立”

■ 導入の決め手は“継続的なメンテナンス”

導入の決め手は、CrackProof(以下CP)が長期間にわたって提供されている製品であるということ。

「セキュリティ対策というのは、一度何らかの技術を入れて完了ということではなく、その時々状況により修正をしたり、システム側の動向に伴って設定を変えたりと、長い目で見て継続的なメンテナンスが必要であるという認識がありました」とA社様は言う。

「DNPハイパーテックさんには、CPの提供を開始して20年以上という長年の実績があるため、その部分には強く魅力を感じました。」

■ サポート対応には“非常に満足しています”

「サポートの方には、しっかりとお対応いただいています。対応スピードも速く、非常に満足しています。」

過去にあった事例としては、複数ユーザーからのウイルス対策ソフトによる誤検知に関する問い合わせについて、サポートに相談すると、CP処理時の設定をこのように変更してはとの具体的な提案がきたので、その設定に変更したアプリをアップデート配信したという。その結果、同様の問い合わせがなくなり、解決したとのこと。サポート対応の効果を感じていただいているようであった。

■ CrackProof導入後の効果

「“セキュリティに対して非常に気を遣っている会社”との評価をユーザーから頂きました」。

A社様がよく閲覧するX(旧Twitter)には、A社様の運営するプラットフォームに対して「セキュリティをちゃんと気にしてるよね」との良い反応や意見が増えた。また、実際にユーザーとコミュニケーションしている時にもセキュリティについての話題がよく出るようで、その中には「ユーザーから預かったデータに対し、きちんとセキュリティ対策をしている」という意見も多くあったという。

このように、ユーザーの意見を特に重視する理由は、ユーザーの声やレビューがアプリ運営上極めて重要な要素であるためだ。コンテンツで勝負するのではなく、A社様の運営するプラットフォームは“ユーザーさん同士のコミュニケーションで成り立つサービス”であるため、ユーザーに愛してもらうということはプロダクトとして非常に大事な部分。もちろん「安心して楽しくコミュニケーションが取れている」というのも実感されている。

■ “守られた環境”でデータが扱えるというメリットを活用していきたい

「CPを使うことにより、『守られた環境』でデータが扱えるという部分をメリットとして活用していきたいです。例えば、プラットフォーム上でクラッキングされてデータを抜かれることはない、というメリットを利用して、メタバース空間の中で様々なデータを流通させ、大きな経済圏にしていく等、色々な試みを実施していきたいですね。この分野でプラットフォームとして中心的な役割を担っていければ」とのビジョンをA社様は語ってくれた。

A社様の課題を解決！

課題 1

自社サービスのデータの不正な抜き取りを防ぎたい。



**アプリの堅牢化で、
データ保護の仕組みをクラッキングから守る**

課題 2

導入して終わりではなく、
長期的なサポートを期待したい。



契約後も必要に応じ、丁寧なサポート対応

A社様のような仮想空間内でのコミュニケーションを目的としたものに限らず、製品設計や動作シミュレーション、研修など、VR技術は様々な目的で利用されている。

A社様のケースでは、アバターデータの抜き取りを阻止する等、ユーザーの安心を守るためにクラッキングを防ぐ CrackProof の導入を決断されたが、製品設計・シミュレーションアプリであれば技術情報、研修アプリであれば社外秘の研修情報などが保護の対象となりうる。

現在 VR アプリの開発や配信を検討中、または既に実施している企業には、安心して継続的な運用を行うため、ぜひ自社アプリへのクラッキング対策の導入をご検討いただきたい。

株式会社DNPハイパーテック

企業概要

設立	平成6年（1994年）5月18日
所在地	〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134 番地 京都リサーチパーク（公財）京都高度技術研究所内
資本金	4,000 万円（大日本印刷株式会社 100% 連結子会社）
代表者	代表取締役社長 友村 潤一

DNPハイパーテックホームページはこちら

CrackProofの詳しい情報や
アプリのセキュリティ知識が身につくダウンロード資料をご用意しています。

<https://www.hypertech.co.jp>



お問い合わせはこちら

営業担当者がヒアリングを行い、最適な形をご提案いたします。
またCrackProofの使用感を確認できるトライアルも用意しております。
お電話でのお問い合わせは、**075-322-1228**までお願い致します。

<https://www.hypertech.co.jp/contact/>

